

表紙から

これからの農業を支える若い力

春、土の中からも新しい命が芽生える季節です。今月の表紙の人は、東区内で農業を営む横江勲さん（二七）。若手のタマネギ生産者です。

タマネギも三月中旬には芽を出し、春になるとともに農作業が本格化します。今年は暖かく雪が少なかったこともあり、横江さんの家では例年より早い二月下旬に苗床への種まき作業をしました。苗床から畑への移植は四月下旬から五月中旬。その後も除草作業などで忙しい毎日が、八月下旬から九月上旬の収穫時期まで続きます。

ビニールハウスでタマネギが成長するのを待って畑へ移植します



横江さんは「実家がタマネギを生産する農家なので、小さいころから農作業を手伝っていました。そのうちに自然と、将来は農業を仕事にしようと考えているようになり

ました」と話します。農業高校を卒業後、家の手伝いを始めた横江さんですが、農家戸数の減少が進む中、高校の同級生たちも農業に従事しない人が多かったそうです。「自然が相手の大変な仕事ですが、若い仲間も増えてほしいですね。これからも品質の良いタマネギを作り続けられるように、若い力で頑張っていきますよ」と横江さんは笑顔で話してくれました。

札幌市では、増加している遊休農地を有効に活用して、市民の皆さんが野菜や花などの栽培を楽しめる場を提供するために「農家が開設する市民農園」の設置を進めています。平成十四年度は、東区丘珠町に新規開園する農園などの利用者を募集します。詳細は本誌26ページをご覧ください。また、十四年度の募集は三月末で締め切りましたが、サツポロさとらんどでも毎年「市民農園」の貸し出しを行っています。あなたも自然に親しみ、収穫の喜びを味わってみてはいかがでしょうか。

ひがすとりー

第13回

花の名所ができる

東泉園はかつて花に満ちあふれた庭園として知られていました。この花の名所を開いた人物は信州出身の上島正です。

上島は、一八七八（明治十一）年に現在の北十二条東一丁目付近へ移り住み、土地一万坪（約三・三ヘクタール）の貸し付けを受けました。開墾当初は水田を造る予定でしたが、しかし、持参したハナシヨウブの種をまいたところ、花が咲いたので、興味を持った上島は花畑を造り始めました。

一八八一（明治十四）年、上島は開拓使のお雇い外国人から助言を受け、ハナシヨウブの優良な種を得ることに成功しました。翌年三万五千株の苗を育て、その二年



ハナシヨウブが咲く東泉園

東泉園 花のカレンダー

6月	開園
6月中旬	ポタ、シャクヤク
7～8月	ハナシヨウブ
8月	アサガオ
9月中旬	ハギ
11月	閉園

花咲く庭園

東泉園

後には見事なハナシヨウブが咲き乱れる庭園を造ります。そのころ評判を聞いた札幌県令の調所広丈が訪れ、一般への公開を勧めました。上島は地名の字東耕にちなみ東耕園と名付けて公開します。多くの人が訪れるようになった庭園は後に東泉園と改称されました。

札幌の行楽地となる

約二ヘクタールの園内では、季節ごとにさまざまな花が咲き誇りました。上島は北海道で初めてドイツスズランやベゴニアの栽培を手掛けました。また、松、イチイ（オンコ）、ツツジなども植えています。

東泉園は、うつろいゆく四季の風物をめ、花を楽しむ人たちが訪れる、札幌の行楽地になりました。上島は見物に来た人たちに花を安く分け、それで十分に生計を立てていたそうです。

昭和に入ったころから東泉園は住宅地に変わり始めます。一九四五（昭和二十）年ころには、住宅が建ち並び、かつて壮観を誇った庭園は見られなくなりました。